

現行の区政会議について

区政会議は、区政運営にかかる方針や区において実施される事務事業について、その策定に当たって委員の皆さまからご意見をいただき、事業実施後に評価をしていただくための仕組みです。

区政会議でいただいたご意見は、区政運営や事務事業の企画への反映を図ることはもちろん、関係する局・組織へ伝達し、地域課題の解決を図ることとしています。

1. 区政会議の委員について

(1) 委員数

20名	地域活動団体の長	15名 (75%)
	公募委員	5名 (25%)

(2) 委員の年齢分布と天王寺区民の年齢分布

(単位：人、構成比 (%))

	区政会議委員	天王寺区民 (平成22年国勢調査)
20歳～30歳未満	0人 (-%)	9,315人 (16.6%)
30歳～40歳未満	1人 (5.0%)	11,102人 (19.7%)
40歳～50歳未満	3人 (15.0%)	10,500人 (18.6%)
50歳～60歳未満	3人 (15.0%)	8,272人 (14.7%)
60歳～70歳未満	3人 (15.0%)	7,824人 (13.9%)
70歳～80歳未満	8人 (40.0%)	5,695人 (10.1%)
80歳以上	2人 (10.0%)	3,602人 (6.4%)
合 計	20人 (100.0%)	56,310人 (100.0%)

※20歳未満11,807人、年齢不詳1,658人を加えた区民人口は69,775人

2. 区政会議の開催実績

(1) 平成23年度 第1回 区政会議 (平成23年7月29日開催)

議題・天王寺区の防災にかかる取組みについて (説明・報告)

(2) 平成23年度 第2回 区政会議 (平成23年10月1日開催)

議題・平成23年度 区運営方針について

・次年度の課題について

(3) 平成24年度 第1回 区政会議 (平成24年5月9日開催)

議題・平成23年度天王寺区区政会議の評価について

・平成24年度天王寺区運営方針 (本格予算版) に向けて

3. 区政会議での意見を踏まえ、取組に反映した主なもの

ご意見

- 避難所までの行き方を知らない方のために、誘導案内表示を工夫すべき
- 避難所が不足する地域には区独自の私学や国立の学校との支援のネットワークも必要だ
- 避難所開設運営訓練は、実践的な訓練を行う必要がある
- 災害時の通信や情報提供にツイッターやフェイスブックなどの新しい手段も使う事を検討する必要がある
- 災害時を考えると町会加入率の向上が望ましい

取組みへの反映

- 町会掲示板を利用し収容避難所案内図を掲示します。（3町会で実施済。順次区内全域へ拡大）また、電柱等を利用した案内表示も進めます
- 府立高校、私立高校に対して収容避難所としての協力を依頼し、府立高校3校、私立高校1校との収容避難所協定を締結しました
- 23年度の避難所開設運営訓練で、地域の意見をもとに、公園に保管の可搬式ポンプや訓練に必要な資機材について地域の方が搬送を行うなど、より実践的な訓練になるよう工夫しました
- 24年1月30日からツイッターを活用した情報提供を行っており、災害時においても情報発信手段として活用します
- 町会未加入マンション（50戸以上）等を対象に防災にかかる学習会を実施します。（9回実施済、順次実施）



4. 市政改革プラン（案）について

平成24年6月に「市政改革プラン」（案）が公表され、その中で、新しい住民自治の実現に向けて、地域・住民に近いほうがニーズに合った政策を実行できるという考え方（ニア・イズ・ベター）のもと、区内の施策・事業を区長が自らの権限と責任で実施する区政運営の実現をめざすという方向性が示されました。

今後こうした区政運営を実現するためには、区民の多様なご意見やニーズを区政に反映するとともに、区民が区政を評価する仕組みが重要です。

（参考）「市政改革プラン（案）－新しい住民自治の実現に向けて－基本方針編」より作成

（1）区域内の行政を区長の決定により実施する仕組みづくり

- ア 基礎自治に関する施策・事業の決定権の局長から区長への移譲と局の区長の補助組織化**
- ・区民に身近なところで意思決定が行われるようにするため、基礎自治に関する施策や事業についての決定権を局長から区民に身近な区長に移譲
 - ・区長を局長の上位に格付けして、各局を区長による区政運営をサポートする「区長の補助組織」と位置付け

イ 区間調整の仕組みづくり

- ウ 公募区長による個性あふれる区政運営**
- ・公募区長による地域実情や特性に応じた個性あふれる区政運営
 - ・取組や成果を積極的に区民に対して情報発信

（2）多様な区民の意見やニーズを区政に反映するとともに、区民による区政の評価を行うことのできる仕組みづくり

ア 多様な区民の意見やニーズを区政に反映することのできる仕組みづくり

- ・サイレント・マジョリティ（※1）など表面化しにくいものも含めた多様な区民の意見やニーズを的確に把握
- ・多様な意見やニーズを反映させた区政運営を行うため、区長が中心となった地域事情や特性に応じた仕組みづくり

イ 区民が区政運営に参画する仕組みづくり

- ・区において実施される施策や事業など区政運営について、計画・実施・評価のそれぞれの段階で区民との対話や協働により推進
- ・区民が参画する区政運営を行うため、区長が中心となった地域事情や特性に応じた仕組みづくり
- ・区政の評価にあたって、成果の目標は可能な限り数値化、目標の達成状況の測定のためにさまざまなマーケティング・リサーチ（※2）手法を積極的に活用

（※1）サイレント・マジョリティ：公の場で意思表示をすることのない大衆の多数派のこと

（※2）マーケティング・リサーチ：一般的に、消費者の動向や市場の分析など、企業が製品の開発及び販売に関して行う調査（大辞林より引用）であるが、市政改革プランでは、施策・事業の企画・立案から実施など全般にわたる意思決定に役立てるために、施策・事業に関する区民ニーズや区民の動向、施策・事業の成果などに関する情報を収集・分析するという意味で使用。

5. これまでの区政会議における課題（区政会議委員事前アンケートまとめ）

良かった点	改善すべき点
〔委員構成〕 - 委員の構成もバランスの取れた人選だと思う。 - 様々な立場の方が広く意見を出し合うことで、お互いに普段気付かないことが分かり、良かった。 〔会議進行〕 - 委員の意見に対して、区役所から積極的な回答があり、速やかに反映されている感じを受ける。 - 区民に共通する問題点や課題が議題に取り上げられ、意見交換されている。 - 各委員からの幅広い意見により、課題解決に向けたスピード感を感じることができた。 - 資料がよく工夫されており、会議もスムーズに進行していた。 - 災害への対策を主に取り上げ、意見交換・検討され、避難所への案内図の設置など、具体策が実行されたこと。 〔その他〕 - 提案した意見が速やかに区の実行に取り入れられ、心強く感じた。 - 区の運営方針や取組への理解が深まった。 - 各々の委員の発言に天王寺区への愛着を感じた。 - 多面的な角度で議論することの重要性が、区政会議の一番大切な部分だと思う。	〔委員構成〕 - 若い世代（子育て世代や学生など）にも区政会議に参加してもらい、意見をさせるべき。 - 委員数20名は議論するのに多いので、2つに分けるなど、幅広い意見交換をするべき。 - 区の財政に関する都市計画や不動産、税に関する専門知識を持った方に委員に参画してもらうべき。 〔開催・運営〕 - 会議の夜間開催など、多くの区民に傍聴者として参加してもらいやすくし、行政の取組に関心を持ってもらうべき。 - 開催時間をみんなが参加できる時間帯にすべき - 議論するためには、より長い会議時間を設けるべき。 〔会議進行〕 - 施策・事務事業への意見・評価のみならず、テーマを設定し議論するべき。 - あらかじめ議題を絞り、事前に意見を聴取したうえで会議を行うほうが効率的ではないか。 - 事前に議題の説明をして、それに対する意見を事前に提出することで円滑な会議進行となるのではないかと。 - 区政会議は大きな意味での方向性について議論する場であり、具体的な内容は、委員の中でワーキンググループを設けて検討する場があっても良いのではないかと。 - 多くの委員の様々な意見・発言を促すよう、会議の進行を工夫すべき。 - 議題以外の発言が少し多い時もあった。 - ディベートが無い。 〔その他〕 - より区民に見える方向、見える状況にし、区民に関心を持ってもらうようにすべき。 - 議論後のトレース・フォローが不足している。 - 対応できない提案については、理由もあわせて明確にすべき。

○参考（その他委員よりいただいた意見）

- ・各種団体への伝達・検討もされていない。
- ・マンション比率が増加しており、町会加入率の向上とあわせ、希薄化傾向をテーマとして議論すべき。
- ・行政と区民とが一緒になって実施した防災訓練について、素晴らしい取組と感じた。
- ・災害時には、行政のリーダーシップのもと、区民は行動することが基本と考える。
- ・自転車運転のマナーの悪さについて、対策が必要。
- ・区役所に都市計画を策定する部門が抜けている。
- ・固定資産税が非課税あるいは減免となっている土地が多くあり、これらから都市計画税だけでも徴収できるようにし、これを原資にインフラ整備に充てるようにすべき。